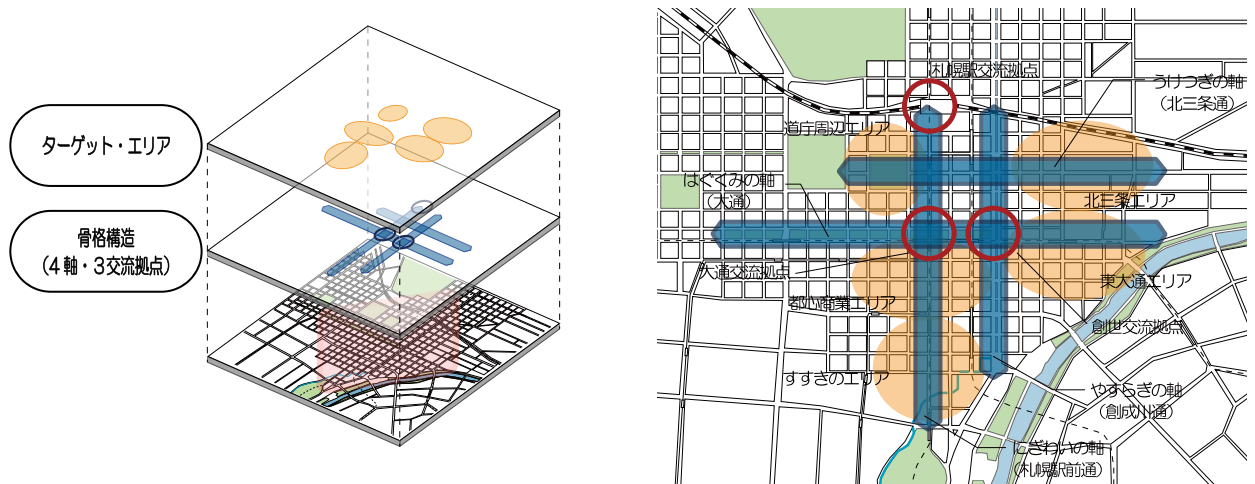


## 1 これまでの都心まちづくりを支えてきた都心の構造

前都心まちづくり計画では、都心まちづくりを進める上で、多様な主体がまちづくりの力点を共有するために、4つの骨格軸と3つの交流拠点からなる「骨格構造」と、まちづくりの連鎖・波及的展開を進める「ターゲット・エリア」を設定しました。



### 骨格軸

都心で展開される多様な都市活動や個々の開発の展開を有機的に結びつけ、目標実現に向けた様々な取組を促進するための基軸として、中心となる通り及びその周辺を含めた範囲を位置付ける。

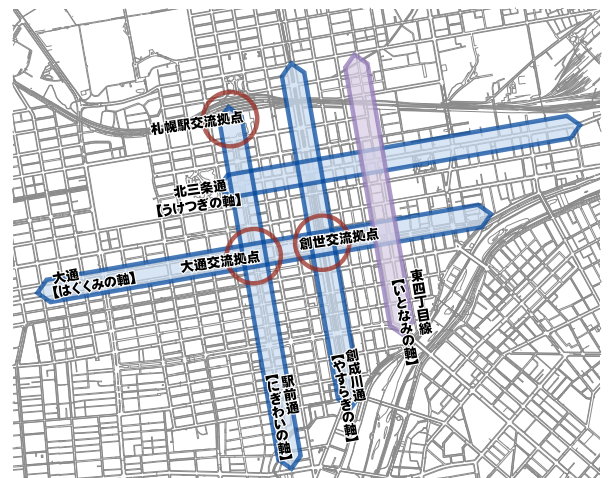
### 交流拠点

新たな活動や交流を生み出し都心全体のまちづくりを先導する点として、骨格軸の交点や、多様な機能・活動等の集積が見込まれる交通結節点を位置付ける。

### ターゲット・エリア

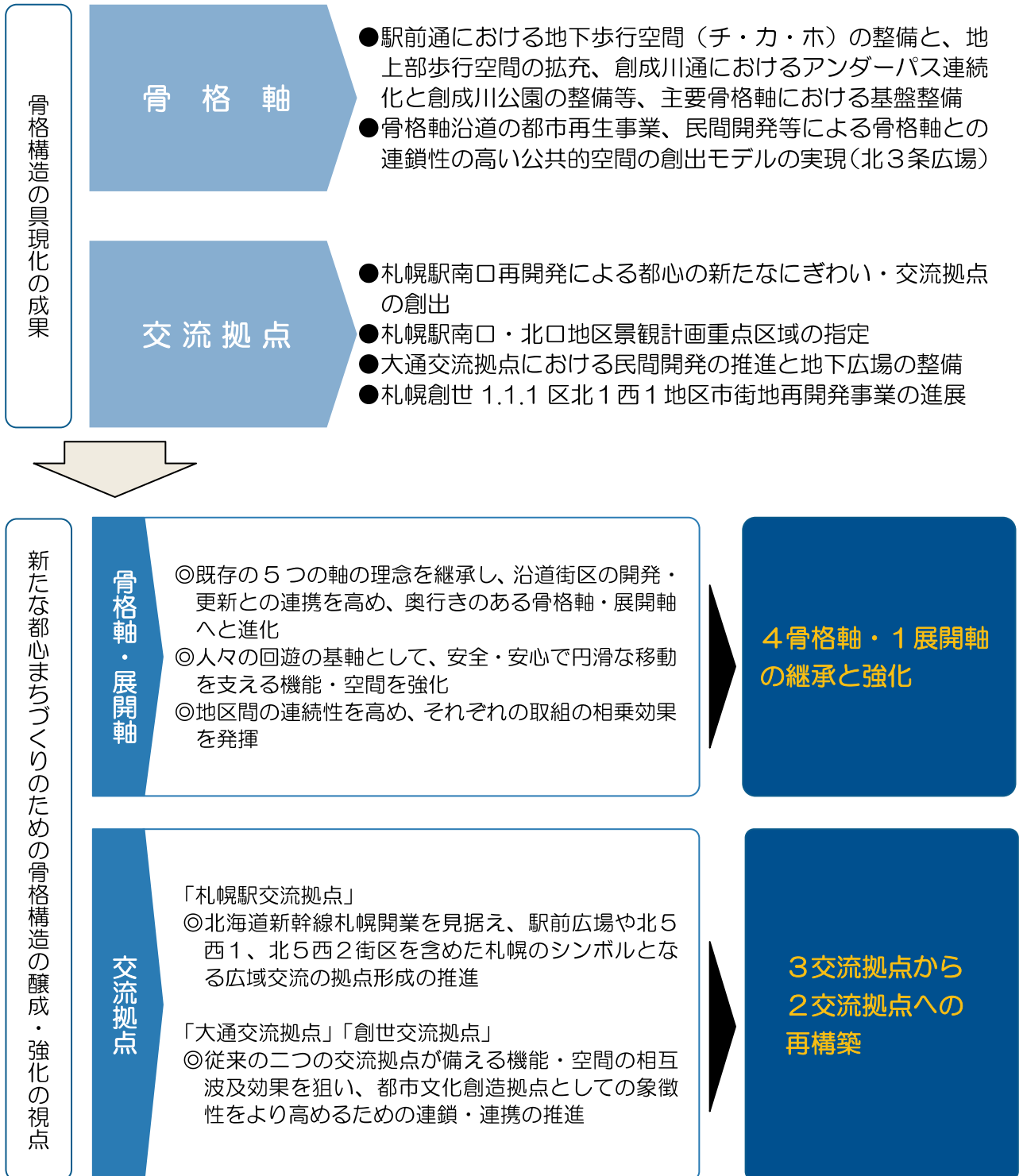
骨格軸及び交流拠点の形成を戦略的に展開するため、これらと連動して面的な広がりでもちづくりを展開すべき地区を位置付ける。

さらに、「前都心まちづくり計画」を補完するために策定した「都心まちづくり戦略」では、「前都心まちづくり計画」の後半10年間の重点的取組として、創成東地区を「重点地区」に定めるとともに、東四丁目線を創成東地区のまちづくりを支える「展開軸」に位置付け、骨格構造を新たに「4骨格軸-1展開軸-3交流拠点」として設定しました。



## 2 次の時代の都心まちづくりを支える骨格構造

### (1) 骨格構造の見直しの視点

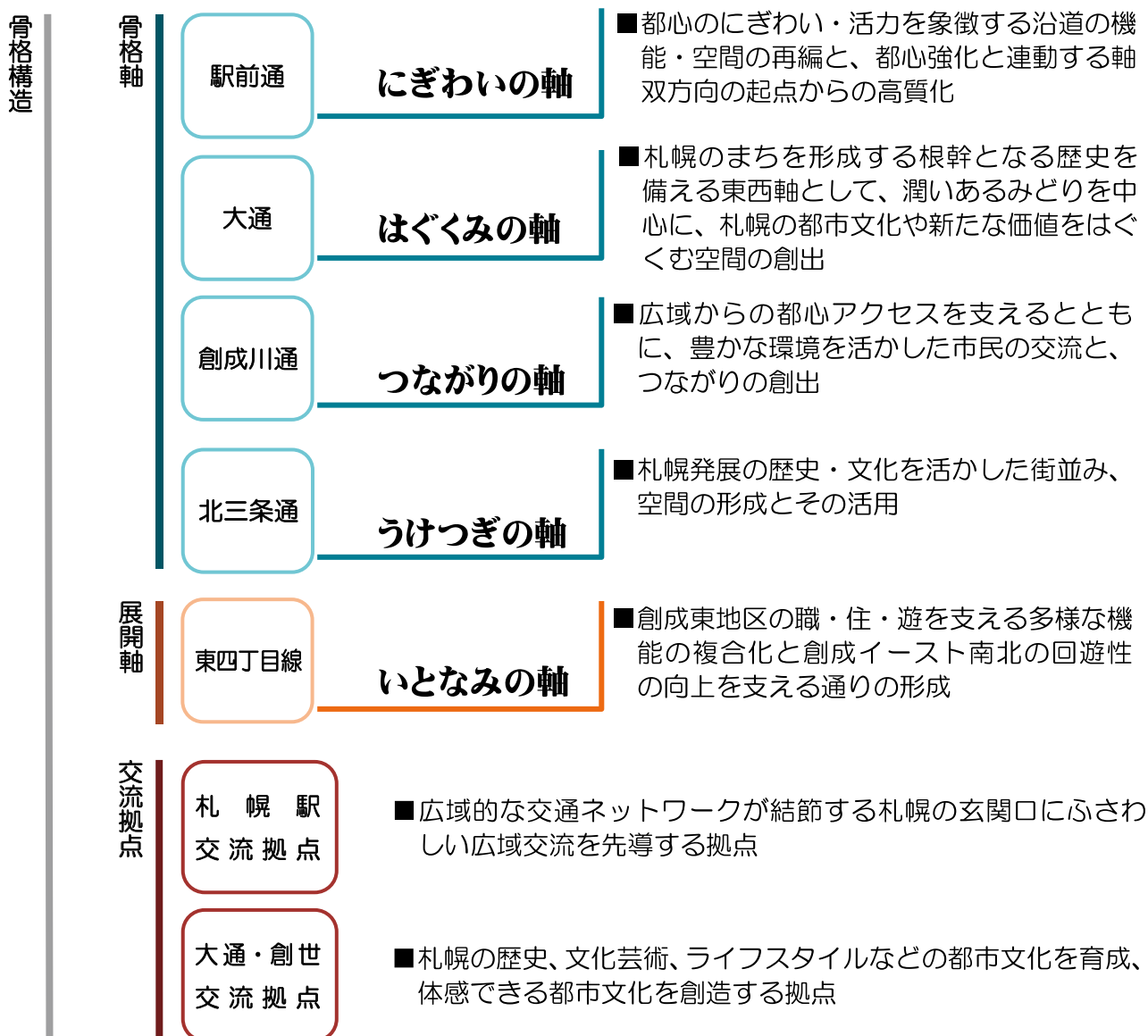


## (2) 都心まちづくりの骨格構造

札幌駅交流拠点は、北海道・札幌の国際競争力をけん引する広域交流の先導的な拠点として、大通・創世交流拠点は、二つの拠点の連鎖・連携により都市文化の創造を象徴する拠点として、それぞれ新たに位置付けます。

また、骨格軸のうち、創成川通については、これまでの「やすらぎの軸」という位置付けから、創成川通に求められる広域交通ネットワークとしての役割や、市民の交流を促進する場としての役割を踏まえ、国内外と「つながる」、人が「つながる」軸として、新たに『つながりの軸』として位置付けます。

こうした位置付けを踏まえ、以下に示すように、都心まちづくりの骨格構造を『4骨格軸-1展開軸-2交流拠点』として定義します。



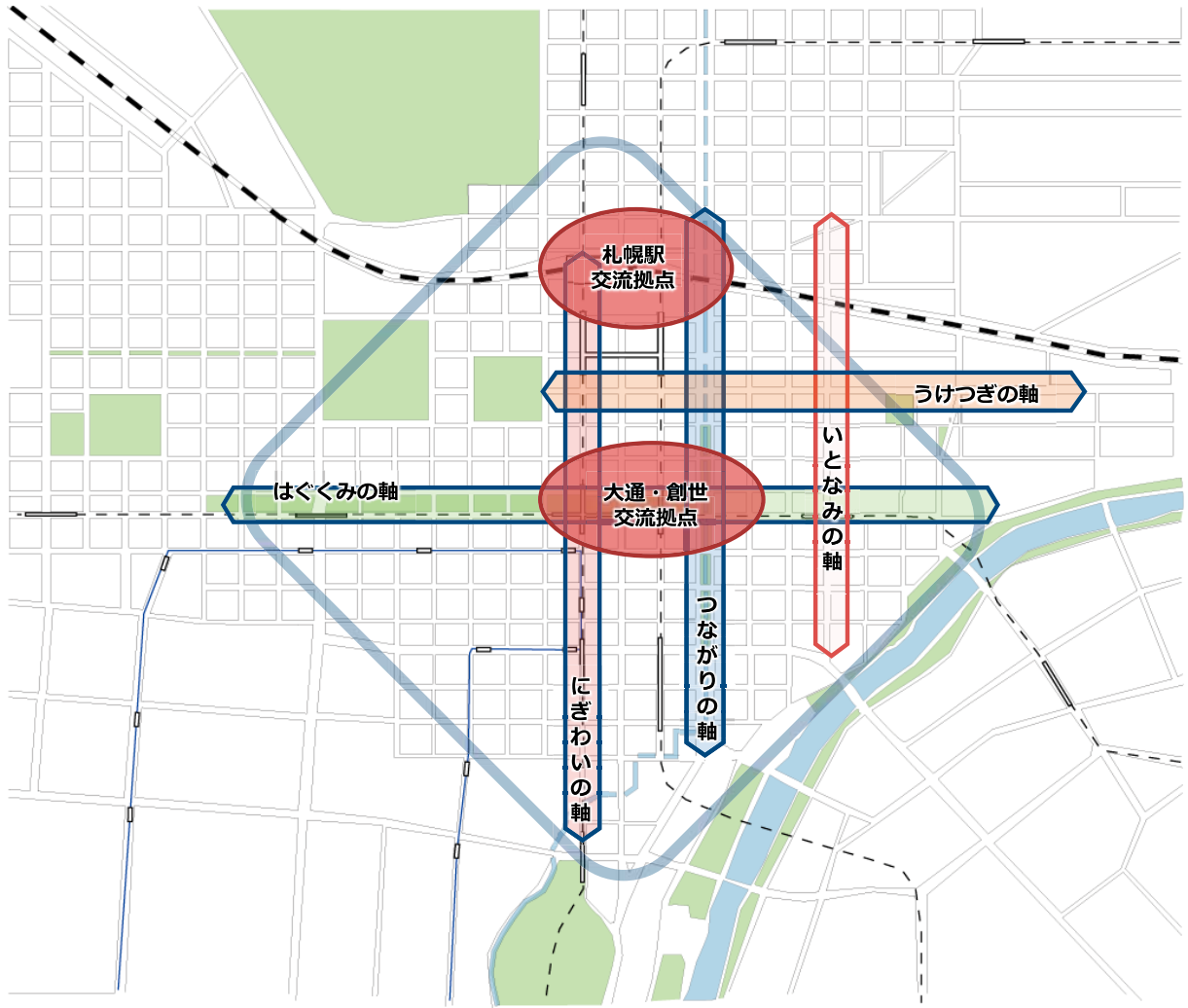


図 都心の骨格構造

### 3 都心まちづくりの新たなターゲット・エリア

#### (1) 新たなターゲット・エリア設定の視点

<p>官民連携によるまちづくりの成果</p>	<p>前都心まちづくり計画のターゲット・エリアにおける取組の進展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都市再生を先導する官民連携型都市開発の具現化 (北2西4地区、北3西4地区等)</li> <li>●道庁周辺エリアにおける骨格軸と一体的な都市空間形成による都心まちづくりのモデル形成(北3条広場)</li> <li>●道庁周辺エリアにおける骨格軸を介した回遊空間の形成と、エネルギーネットワークの展開(北2西4地区)</li> <li>●都心商業エリアにおける、まちづくり会社を中心とした活性化の取組と、関係主体による新たなビジョンづくり</li> <li>●北三条エリアにおける都市再生の推進(北4東6周辺地区)</li> <li>●東大通エリアにおける地域主体のまちづくり活動の芽生え</li> <li>●すすきのエリアにおける安全・安心な歓楽街づくりに向けた取組の実施</li> </ul>
<p>上位計画の見直し</p>	<p>第2次札幌市都市計画マスタープランとの整合</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区の特性に応じた都心のゾーン</li> </ul>

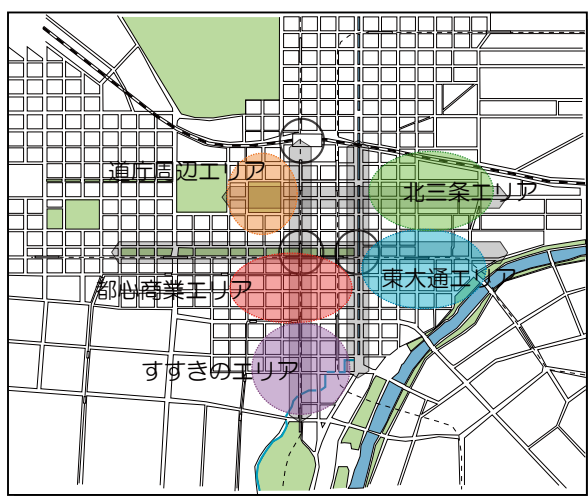


図 前都心まちづくり計画のターゲット・エリア

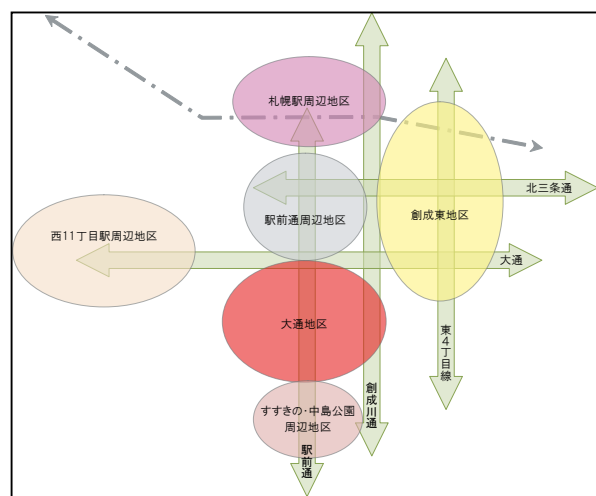


図 第2次札幌市都市計画マスタープランの特性に応じた都心のゾーン

新たな都心まちづくりのためのターゲット・エリア設定の視点

【視点】  
都心強化に資する  
取組を、先導的に  
推進すべきエリア  
の設定

- ◎札幌駅交流拠点、大通・創世交流拠点それぞれのまちづくりの更なる展開の可能性
- ◎エネルギー・地下歩行・交通ネットワークを活かした沿道の民間投資の促進の可能性
- ◎エネルギー・回遊空間のネットワークを活かした札幌駅交流拠点、大通・創世交流拠点間の連鎖・連携の可能性
- ◎都市開発に合わせた象徴的パブリックスペース※6（北3条広場）と周辺への連鎖的展開の可能性
- ◎官民連携の取組による高機能オフィス※7の整備促進に資するエリアの位置付けの必要性

【視点】  
大通公園西周辺  
エリアの明確化

- ◎札幌市のMICE※8展開を支えてきたホール・ホテルの集積
- ◎老朽ストックの更新の必要性
- ◎文化芸術施設の集積
- ◎大通公園を介した他のエリアとのネットワーク強化の可能性
- ◎西11丁目駅周辺における既存の機能集積を活かした取組の可能性

【視点】  
既存エリアの強化

- ◎都心商業エリアにおけるまちづくりの検討をはじめとする、既存ターゲット・エリアのまちづくりの動向を踏まえた、これからの都心まちづくりのターゲット・エリア像の明確化

新たなターゲット・エリアの設定

※6 パブリックスペース：公共的な空間。行政や民間など、整備主体を問わず、不特定多数の人が利用できる空間。  
 ※7 高機能オフィス：高い耐震性や自立電源等による、災害時における業務継続性の高さやエネルギー利用の低減によるCO<sub>2</sub>削減等環境にも配慮したオフィス。  
 ※8 MICE：多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称で、Meeting（会議・セミナー）、Incentive tour（企業報奨・研修旅行）、Convention（大会・学会・国際会議）、Exhibition（イベント・展示会・見本市）の頭文字のこと。

## (2) 新たなターゲット・エリア

### 都心強化先導エリア

高機能オフィス環境の整備やエネルギーネットワークの形成等により国内外からヒト・モノ・投資を呼び込み、北海道・札幌の経済発展をけん引する都心まちづくりを先導するエリア

### 大通公園西周辺エリア

大通公園を軸として、地区に集積するホール・ホテル等の交流施設を活かしたまちづくりを展開するエリア

### 都心商業エリア

沿道路面の魅力の再生と中心商業地としての歴史・伝統の活用により活性化を図るエリア

### すすきのエリア

札幌の都市観光の魅力を充実させるとともに、隣接する中島公園との連携等を通し、人々の交流を高め、歓楽街としての魅力を向上させるエリア

### 創成イースト北エリア

多様な生活支援サービスや起業環境の強化とともに、地区の歴史的なストックを最大限に活用し、創成川東西の市街地の連携と人々の回遊・交流を高めるエリア

### 創成イースト南エリア

コミュニティの場となる神社や市場など、地区の歴史を今に伝える資源を活かした、創成イーストの魅力を高めるまちづくりを推進するエリア

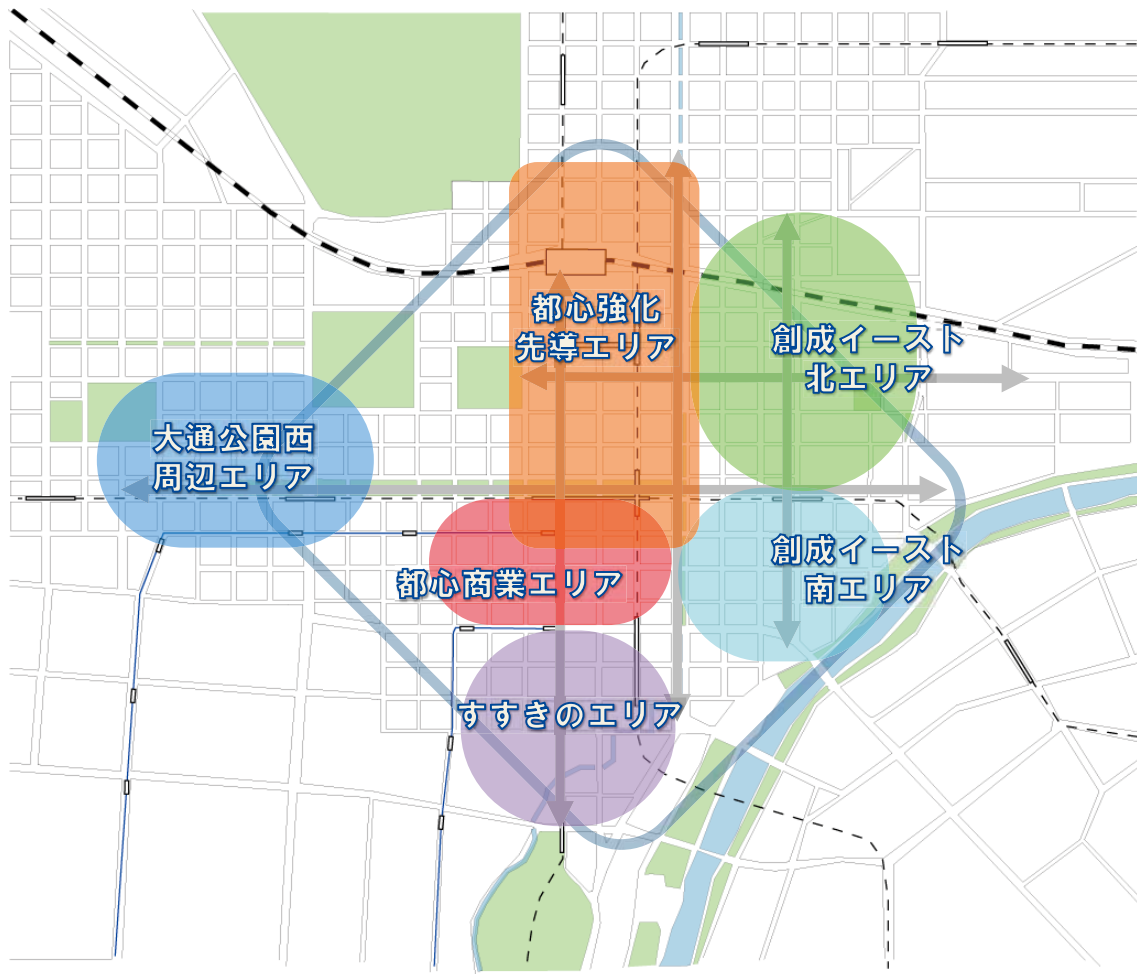


図 都心のターゲット・エリア